

第2回
コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」



平成23年2月18日(金) 13時～
国立オリンピック記念青少年総合センター

目 次

・ プログラム	1
・ 第2回コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」 グループ名簿	2
・ グループ熟議のテーマと課題例	3
・ 会場図	4
・ コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」について	5
・ 第1回 コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」 結果概要について	13
・ コミュニティ・スクールについて	15
・ 平成22年度の「コミュニティ・スクール推進施策」について	16
・ 「熟議」に基づく教育政策形成の取組について	19

第2回コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」

プログラム

1 趣 旨

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を指定又は検討している教育委員会の教育長等による熟議により、第1回熟議において提起された課題について具体的な解決策を考える。

2 日程

- ・日時：平成23年2月18日（金）13：00～
- ・会場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟
（受付・全体会会場：3階310号室）

3 プログラム

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 13：00 | ビデオ・メッセージ | 鈴木 寛 文部科学副大臣 |
| 13：10 | 鼎談 | 貝ノ瀬 滋 三鷹市教育委員会教育長
佐藤 晴雄 日本大学教授
前川 喜平 文部科学省大臣官房総括審議官 |
| 14：10 | グループ熟議 | 教育長等53名 |
| 15：50 | 発表 | |
| 16：20 | 講評 | 小松 郁夫 玉川大学教職大学院教授 |

4 グループ熟議のテーマと課題例

- ① 学校運営協議会の実質化を図るための取組
- ② 地域住民との協働・参画を増やすための取組
- ③ 幅広く継続的な支援の確保のための取組
- ④ 関係機関の連携拡充を図るための取組（行政部局間、企業・大学等）

※ 熟議終了後、「全国コミュニティ・スクール連絡協議会（仮称）」の発足会を開催（30分程度）

○第2回 コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」グループ名簿

グループ	テーマ	都道府県	市区町村	教育長氏名	CS 指定 校数	CS内訳	CS導入 (予定) 年度	全校 指定	設置学校数		第1回 熟議参 加
									小学校	中学校	
①	テーマ4	岡山県	勝央町	竹 久 保	1	中1	H22		2	1	
		福岡県	太宰府市	關 敏 治	0		(H24予定)		7	4	
		熊本県	玉名市	森 義 臣	3	小2中1	H18		21	6	○
		山口県	宇部市	白 石 千 代	2	小2	H20		24	13	
		東京都	三鷹市	貝ノ瀬 滋	22	小15中7	H18	◎	15	7	○
		群馬県	伊勢崎市	山 口 晃	1	小1	H20		24	11	○
②	テーマ2	熊本県	小国町	原 山 吉 秋	1	小1	H22		1	1	
		福岡県	大木町	石 川 省 三	1	小1	H22		3	1	○
		大分県	臼杵市	吉 田 純 雄	0		(H24予定)		15	6	
		千葉県	香取市	関 亮	0		(H24予定)		23	8	
		山口県	山口市	岩 城 精 二	6	小4中2	H21		34	17	
		京都府	京都市	高 桑 三 男	171	小136中22特支5幼8	H16		177	75	○
③	テーマ4	福島県	大玉村	押 山 利 一	0		(H23予定)		2	1	
		京都府	精華町	太 田 信 之	1	中1	H21		5	3	○
		兵庫県	宍粟市	小 倉 庸 永	4	小3中1	H22		20	7	○
		山口県	光市	吉 村 誠 司	0		(H24予定)		11	5	
		岐阜県	高山市	中 村 健 史	0		-		19	12	
		奈良県	奈良市	中 室 雄 俊	0		(H23予定)		49	21	
④	テーマ3	岡山県	岡山市	山 脇 健 健	92	幼31小42中18高1	H17		93	38	○
		徳島県	那賀町	尾 崎 隆 敏	0		(H24予定)		7	4	
		山口県	長門市	江 原 健 二	8	小8	H20		11	7	○
		滋賀県	湖南市	奥 村 容 久	1	小1	H19		9	4	
		岐阜県	多治見市	村 瀬 登 志 夫	1	小1	H19		13	8	
		三重県	鈴鹿市	水 井 健 次	0		-		30	10	
⑤	テーマ3	東京都	八王子市	石 川 和 昭	21	小11中10	H19		70	38	○
		東京都	武蔵村山市	川 上 智	0		(H23予定)		9	5	
		京都府	伊根町	石 野 渡	0		(H24予定)		2	2	
		広島県	尾道市	半 田 光 行	1	小1	H17		31	18	○
		熊本県	氷川町(組合)	廣 瀬 亀	5	小3中2	H19	◎	3	2	○
		宮崎県	門川町	新 原 と も 子	0		(H23予定)		4	2	
⑥	テーマ2	福岡県	春日市	工 藤 一 徳	18	小12中6	H17	◎	12	6	○
		山口県	岩国市	佐 倉 弘 之 甫	2	中2	H19		38	17	
		新潟県	聖籠町	伊 藤 順 治	4	小3中1	H20	◎	3	1	○
		大分県	津久見市	蒲 原 学	0		(H24予定)		7	5	
		佐賀県	鹿島市	小 野 原 利 幸	0		(H24予定)		7	2	
		福岡県	那珂川町	大 島 和 寛	0		(H23予定)		7	3	
⑦	テーマ1	山口県	萩市	岩 崎 肇	2	小1中1	H18		21	15	
		東京都	日野市	米 田 裕 治	2	小2	H20		17	8	○
		三重県	津市	中 野 和 代	2	小1中1	H17		57	22	○
		岡山県	美咲町	泉 和 男	2	中2	H19		5	3	○
		熊本県	水俣市	葦 浦 博 行	0		(H24予定)		7	7	
		福岡県	宇美町	池 田 隆	3	小2中1	H21		5	3	○
⑧	テーマ1	三重県	亀山市	上 田 寿 男	0		(H24予定)		11	3	
		鳥取県	南部町	永 江 多 輝 夫	3	小2中1	H18		3	2	○
		佐賀県	佐賀市	東 島 正 明	3	小2中1	H19		36	18	
		山口県	下関市	波 佐 間 清	0		-		53	23	
		岩手県	岩泉町	下 川 克 彦	6	小3中3	H19		13	7	
		岡山県	早島町	岡 頌 敏	2	小1中1	H20	◎	1	1	
⑧	テーマ1	佐賀県	嬉野市	杉 崎 士 郎	2	中2	H19		8	4	○
		京都府	南丹市	森 榮 一	0		(H24予定)		17	4	
		熊本県	荒尾市	丸 山 秀 人	0		(H25予定)		11	4	
		岐阜県	岐阜市	安 藤 征 治	5	小5	H20		48	21	○
		東京都	杉並区	井 出 隆 安	14	小8中6	H17		43	23	

○CS指定校 412校

○CS導入年度 H16:1 H17:5 H18:4 H19:9 H20:7 H21:3 H22:4 予定・検討 20

○第1回熟議参加 21名

第2回コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」

●グループ熟議のテーマと課題例

テーマ1 学校運営協議会の実質化を図るための取組

- 課題例)
- ・ 熟議の進め方、在り方
 - ・ 委員構成の工夫
 - ・ 協議会委員以外の地域意見の反映
 - ・ 学校評価の活用

テーマ2 地域住民との協働・参画を増やすための取組

- 課題例)
- ・ 当事者意識の醸成
 - ・ 当事者の拡充（若い世代を含む地域住民の参画、大人の生涯学習の場）
 - ・ 地域特性に応じた工夫（都市⇔中間⇔地方）

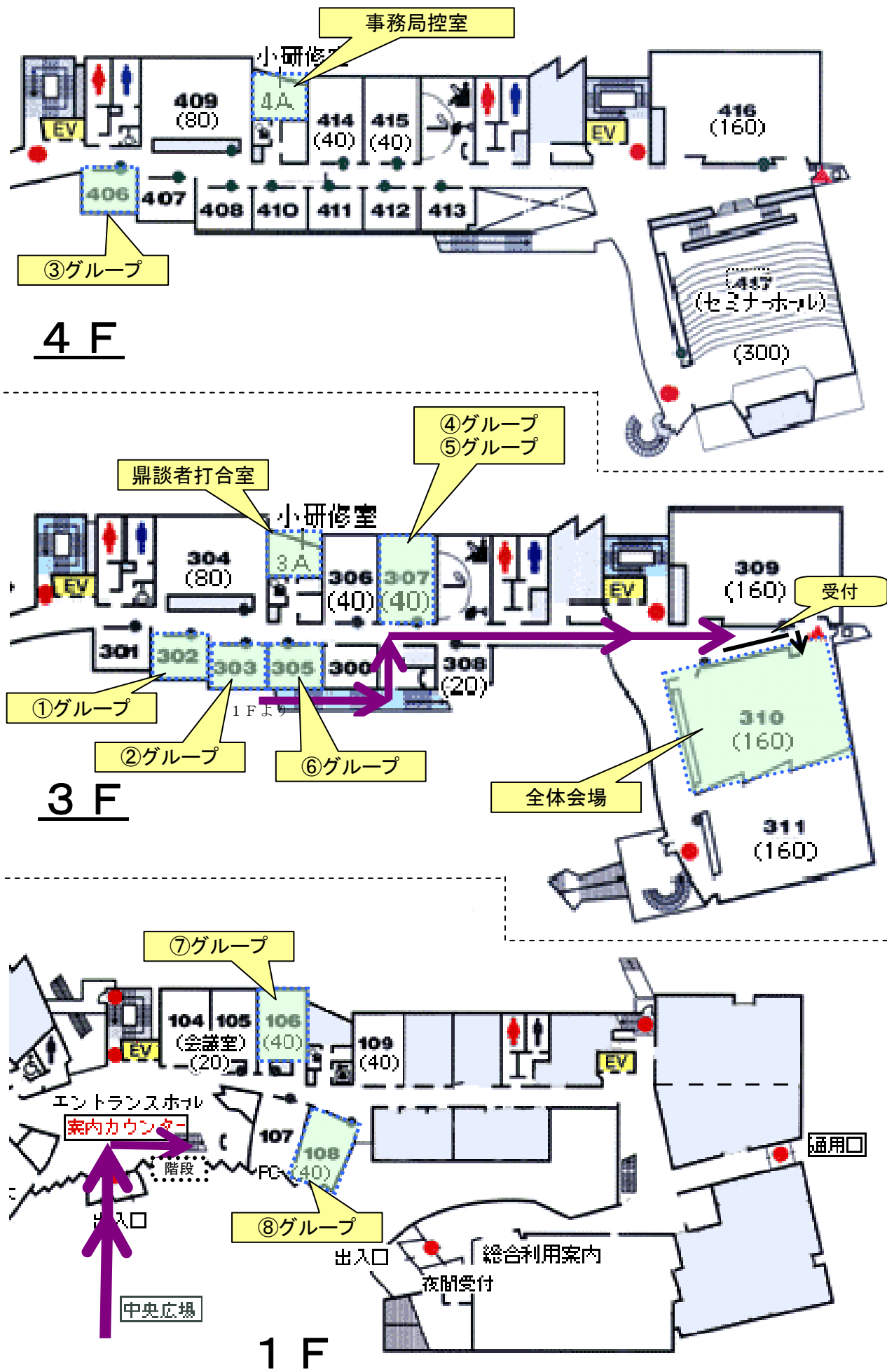
テーマ3 幅広く継続的な支援の確保のための取組

- 課題例)
- ・ 学校と地域のコミュニケーション
 - ・ コーディネーターの雇用等活動経費の確保（基金の仕組み）
 - ・ 効果的な成功例の共有化
 - ・ 教員の負担感の軽減（研修、公募、配置、校内熟議の活用）

テーマ4 関係機関の連携拡充を図るための取組（行政部局間、企業・大学等）

- 課題例)
- ・ 学校教育部局、社会教育部局、福祉部局間の連携
 - ・ 学校を核とした地域の活性化
 - ・ 推進改善などの取組の継続
 - ・ 適正単位（中学校区等）のとらえ方、考え方
 - ・ 町内会、企業、大学、他の校種との連携の在り方

第2回 コミュニティ・スクールの在り方を考える熟議 会場案内図



コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」について

※「熟議」＝多くの当事者による熟慮と討議を重ねながら政策を形成していくこと

＜熟議の進め方＞

第1ラウンド

●課題を出し合い、共有化する場合

- (1) 自己紹介（1人30秒程度）
- (2) 討議

- ① ピンク色の付箋紙に課題を記入
（5分程度）

※ 1枚に課題を1件記入

※ 1人複数枚作成可能

- ② 順に付箋紙を白板やホワイトボードに貼りながら発表
- ③ ファシリテーターが課題を整理



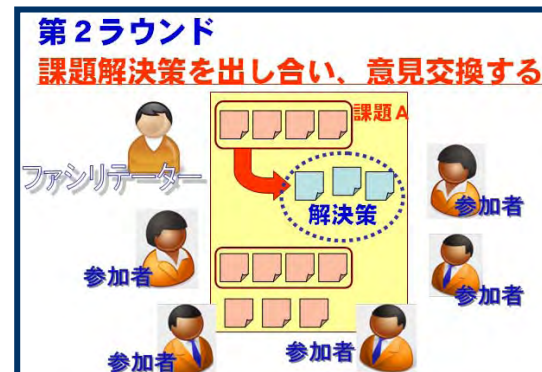
第2ラウンド

●課題解決策を出し合い、意見交換する場合

- ① 課題に対する解決策を青色の付箋紙に記入
（5分程度）

※「課題に対して、自分はこうした、みんなでこうしたしよう。」といった具体的な内容を記入

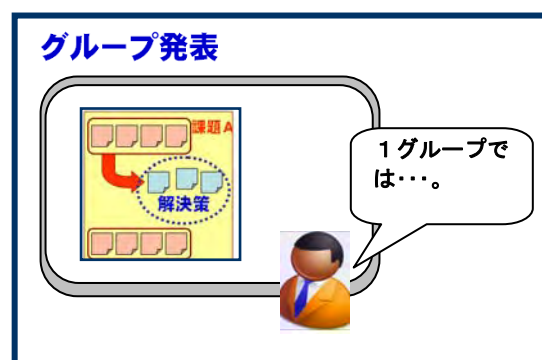
- ② 順に付箋紙を白板やホワイトボードに貼りながら発表
- ③ ファシリテーターが解決策を整理し、発表内容を確認
- ④ 発表者を決定



グループ発表

●各グループの討議結果を共有する場合

- ・各発表者が討議結果を発表
- ※各グループ3分以内





第2回 コミュニティ・スクールの 在り方を考える「熟議」

日時：平成23年2月18日（金）

13時00分～16時30分

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

熟議とは

- ◆「熟議」とは、
多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら
政策を形成していくこと。

- ◆政策を形成する際、
 - ①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって
 - ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより
 - ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに
 - ④解決策が洗練され
 - ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになるというプロセスのことを言う。

前回の熟議

コミュニティ・スクールの課題と解決策

1. 学校運営協議会の実効性の向上

⇒熟議を活用した会議運営、学識経験者の協力、委員の資質向上、校長のリーダーシップによる人材発掘

2. 活動基盤の整備

⇒活動経費の確保、NPOとの連携、教員の加配、コーディネーターを雇用、首長部局との連携

前回の熟議

コミュニティ・スクールの課題と解決策

3. より地域に根差した学校運営協議会の取組の推進

⇒中学校区の実組、地域連携予算の配当、熟議の活用による当事者意識の醸成

4. 教員の負担感の軽減

⇒成功例の普及、教員研修の充実、教員公募の活用、コーディネーターの発掘（ボランティアの活用）

第2回 熟議

●グループ熟議 テーマ

- 1 学校運営協議会の実質化を図るための取組
⇒⑦・⑧グループ
- 2 地域住民との協働・参画を増やすための取組
⇒②・⑥グループ
- 3 幅広く継続的な支援の確保のための取組
⇒④・⑤グループ
- 4 関係機関の連携拡充を図るための取組
(行政部局間、企業・大学等)
⇒①・③グループ

テーマごとの課題例

1 学校運営協議会の実質化を図るための取組

課題例) ・熟議の進め方、在り方 ・委員構成の工夫
・協議会委員以外の地域意見の反映 ・学校評価の活用

2 地域住民との協働・参画を増やすための取組

課題例) ・当事者意識の醸成
・当事者の拡充(若い世代を含む地域住民の参画、大人の生涯学習の場)
・地域特性に応じた工夫(都市⇄中間⇄地方)

テーマごとの課題例

3 幅広く継続的な支援の確保のための取組

課題例) ・学校と地域のコミュニケーション ・コーディネーターの雇用等活動経費の確保(基金の仕組み)
・効果的な成功例の共有化 ・教員の負担感の軽減(研修、公募、配置、校内熟議の活用)

4 関係機関の連携拡充を図るための取組 (行政部局間、企業・大学等)

課題例) ・学校教育部局、社会教育部局、福祉部局間の連携
・学校を核とした地域の活性化
・推進改善などの取組の継続
・適正単位(中学校区等)のとらえ方、考え方
・町内会、企業、大学、他の校種との連携の在り方

第2回 熟議

《第1ラウンド》

- テーマの実現に向けて、どのような課題があるかを考え、出し合う。

課題を出し合い、整理する



第2回 熟議

《第2ラウンド》

- 第1ラウンドで共有した課題に対する「解決策」を考える。
 - ◆ 解決策を具体的に掘り下げていく。

解 決 策 を 具 体 化 す る

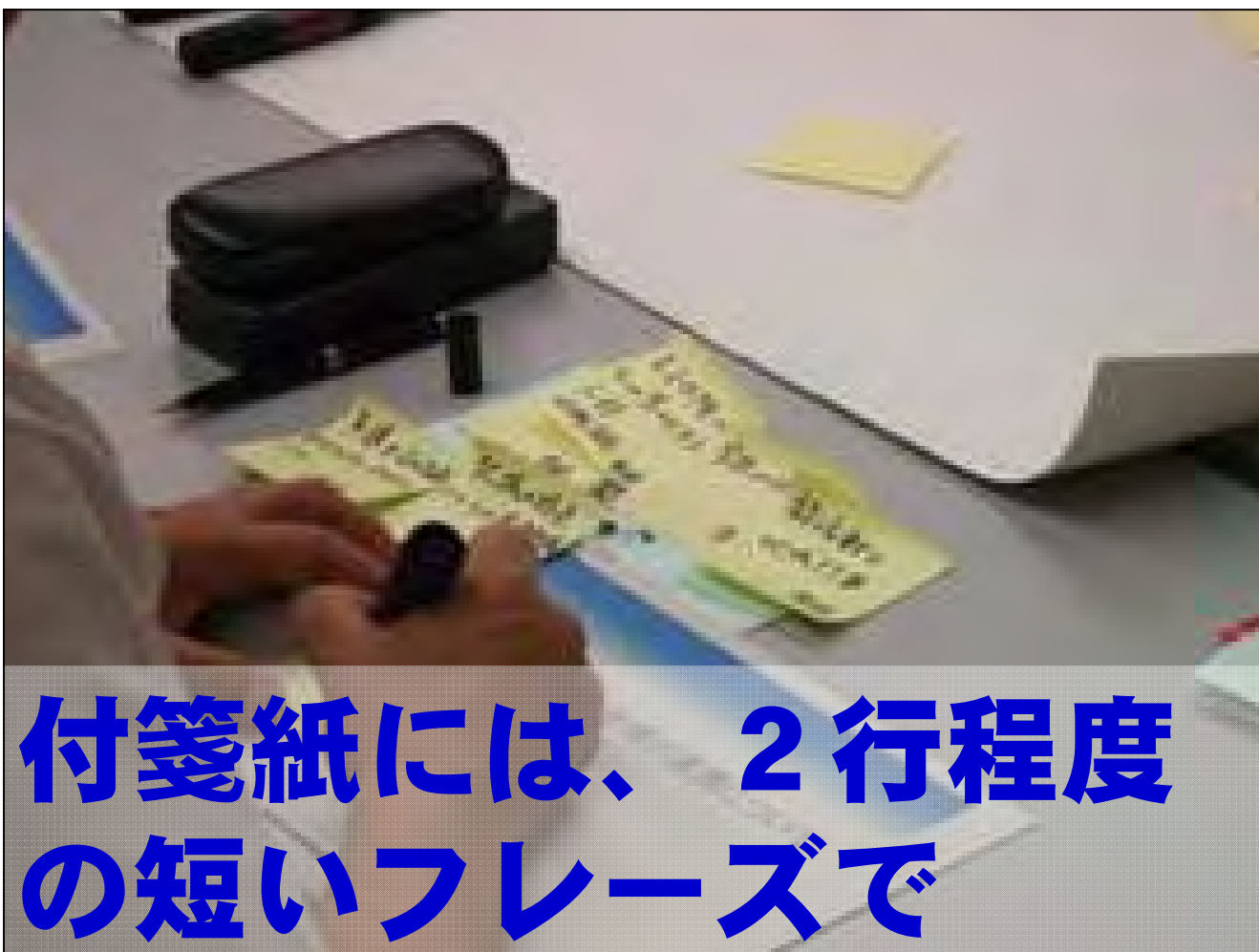


グループ熟議の進め方

第1ラウンド

課題を出し合い、共有化する

- ・ 自己紹介 各自30秒
①所属・氏名 ②コミュニティ・スクールへの思い
- ・ テーマの実現に向けた課題を付箋紙（ピンク）に端的に記入（5分）
※「1枚に1件」が原則
- ・ 順に発表しながら付箋紙を白板やホワイトボードに貼る
- ・ ファシリテーターは、課題が分かりやすくなるよう付箋紙を整理



付箋紙には、2行程度の短いフレーズで

グループ熟議の進め方

第2ラウンド

課題解決策を出し合い、意見交換する

- ・ 第1ラウンドで明確になった課題に対する**解決策**を付箋紙（青）に端的に記入（5分）※「1枚に1件」が原則
- ・ 「課題に対して、自分はこうした、こうしたい、みんなでこうしましょう。」を書く
- ・ 順に発表しながら付箋紙を白板やホワイトボードに貼る
- ・ ファシリテーターは、解決策が分かりやすくなるよう付箋紙を整理



第1回 コミュニティ・スクールの在り方を考える「熟議」 結果概要

初等中等教育局参事官付

1 趣旨

学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を設置している教育委員会の教育長等により、コミュニティ・スクールのこれまでの成果と今後の在り方について熟議を実施した。

2 日時及び会場

平成22年10月12日(火曜日)9時30分～13時00分
学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋2丁目)

3 プログラム

①対談「コミュニティ・スクールの取組を通じて、新しい公共型学校を考える。」

対談者：鈴木 寛 文部科学副大臣

金子郁容 慶應義塾大学 SFC 研究所所長・大学院教授

②グループ熟議

「より良いコミュニティ・スクールに向けて～コミュニティ・スクールで目指すもの、これまでの成果、これからの課題～」

③グループ発表

④講評 金子 郁容 氏、鈴木 寛 文部科学副大臣

4 グループ熟議の結果概要 ※以下、5つのグループにおける熟議結果を整理統合した。

【課題1】学校運営協議会の実効性の向上

学校課題の改善という観点から学校運営や人事に関する意見を述べて学校運営へ参画するという学校運営協議会の役割が十分果たされていない。

●解決案

- ・各委員が意見を自由に出し合いながら課題を共有化して活動を構築することができるよう、学校運営協議会で「熟議」を活用した議論を行う。
- ・学校運営協議会の議論を活性化するため、学識経験者などの協力を得る。
- ・学校運営協議会において人材育成を図るという観点から、委員の資質向上を図る。
- ・教育活動の充実に資するため、教員評価や学校評価との関連を図る。
- ・コミュニティ・スクールの成功例・失敗例を把握・分析し改善に生かす。
- ・校長のリーダーシップのもとで、委員の人材発掘を行う。地域の商工会や企業、大学などから若い世代の人材も依頼していく。

【課題2】活動基盤の整備

学校運営協議会の経費等を確保し、活動基盤を整備する必要がある。

●解決案

- ・地域の理解を得て活動に要する経費等の拠出を依頼する。NPOなどとの連携を

進める。

- ・首長部局と連携し、市町村の総合計画にコミュニティ・スクールを位置付け、総合的な取組を推進する。
- ・コミュニティ・スクールの運営事務担当の教員の加配を措置する。市町村の独自予算によるコーディネーターを雇用する。

【課題3】より地域に根差した学校運営協議会の取組の推進

社会総がかりの教育を進める観点から、企業や大学との連携、幼稚園から高等学校までの校種間連携を踏まえた学校運営協議会の在り方を検討する必要がある。

●解決案

- ・地域性にとらわれない学校運営協議会の取組、中学校区で1つの学校運営協議会の取組など多様な方法を検討する。
- ・「新しい公共」の観点から、学校と地域が連携した取組への学校予算の配当が可能となるようにする。
- ・「熟議」の活用などで関係者が参加することで、当事者意識を醸成し、地域住民にコミュニティ・スクールの意義について理解啓発を図る必要がある。

【課題4】教員の負担感の軽減

学校運営協議会の運営事務や、地域住民とのコミュニケーションなど、コミュニティ・スクールに係る業務等に対して、教員の負担感が生じている。

●解決案

- ・教員が地域住民と円滑にコミュニケーションし連携できるよう、コミュニケーション能力の育成、社会教育についての研修、成功例（効果的な事例）の普及啓発などを進める。
- ・コミュニティ・スクールに興味のある教員を公募する。
- ・学校運営協議会をコーディネートする人材と予算の確保、コーディネーターを担える人材の発掘、ボランティアを活用する。

（※コミュニティ・スクール導入期の多忙感はある。しかし、地域との役割分担ができてくると、負担軽減を図ることができた事例が多い。）

「新しい公共」型学校の在り方について

※教育長アンケートから一部抜粋

- 地域の教育力を引き出し、学校の閉鎖性を打破する方向を探求したい。
- 学校・地域両方にとってメリットのある施策を検討していきたい。
- 学校を地域コミュニティの核とするために校長の意識改革が必須。
- 地域から支援を受けるだけでなく、学校が地域づくりに寄与し、貢献していく時期が来ている。「新しい公共」型学校のコンセプトは時機を得たもの。是非取り組みたい。

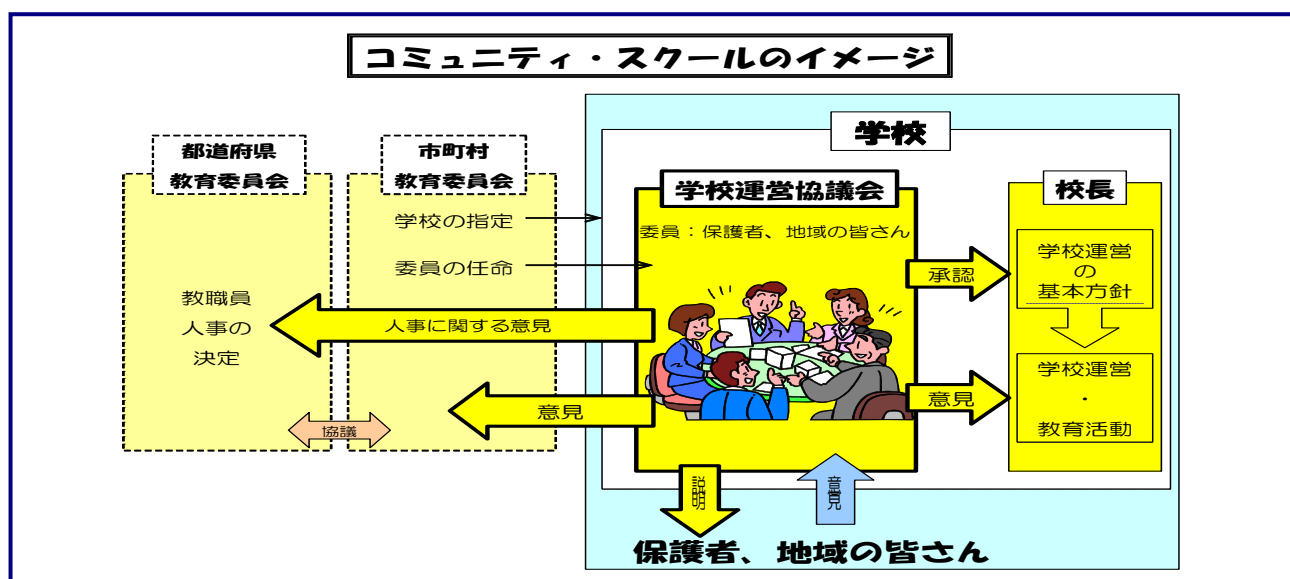
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

1. 制度の導入

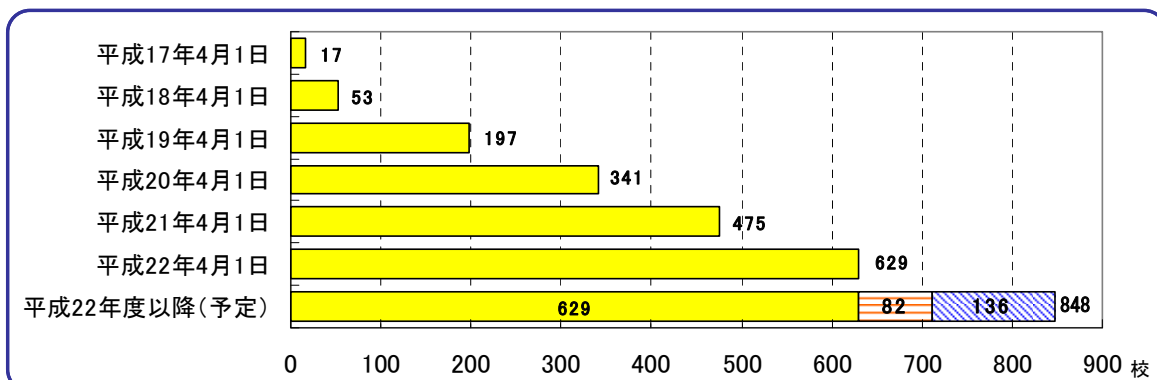
保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」を設置可能とするため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部を改正。平成16年9月9日より施行。

2. 学校運営協議会の主な役割

- 校長の作成する学校運営の基本方針の承認
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見
- 教職員の任用に関して、教育委員会に意見
(教育委員会はその意見を尊重して教職員を任用)



公立学校における学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の指定（予定）状況



※ 平成22年度以降の指定予定・検討状況は、平成22年4月1日現在の文部科学省の調査による。

は、平成22年4月2日～平成23年4月1日までに、は、平成23年4月2日以降に指定予定の学校数を表す。

3. 文部科学省ホームページ（コミュニティ・スクールについて）

(掲載内容)

啓発用パンフレット（文科省作成）、コミュニティ・スクール設置の手引き、事例集、推進協議会の概要、コミュニティ・スクールの在り方を考える熟議の概要 等

(掲載アドレス)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm

文部科学省HPトップ→教育→小学校、中学校、高等学校→コミュニティ・スクールについて

平成22年度の「コミュニティ・スクール推進施策」について

○学校運営協議会制度普及説明会 平成22年度＜新規＞

コミュニティ・スクール指定校が1校もない地域の保護者、地域住民、学校関係者等を対象とした個別説明会を開催し、制度についての理解促進や指導助言等を行い、制度導入を促しています。

[開催地域]

●22年度 15地域 (約2300名が参加)

○コミュニティ・スクールの推進に係る調査研究事業 (平成17年度～)

これからコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入しようとする各学校の実情に応じた制度運用の方策等を教育委員会に委託して研究・開発しています。

[実施教育委員会数(学校数)]

●平成22年度 28都府県 4指定都市教育委員会(計238校)

○コミュニティ・スクール推進協議会 (平成17年度～、全国4会場) ※平成19年度までは3会場

コミュニティ・スクール指定校及び制度導入を検討している地域の保護者、地域住民、学校関係者等を対象とした協議会を開催し、導入の円滑化や指定校運営の充実に資する調査研究の成果発信などを通じて、更なる制度普及を図っています。

[開催地]

●平成22年度 秋田県、滋賀県、佐賀県、東京都(約1700名が参加)

○学校運営協議会委員研究協議会 (平成21年度～、全国1会場)

全国の学校運営協議会委員、教育委員会関係者を対象とした研究協議会を開催し、学校運営協議会の充実した運営に向けた取組を推進しています。

[開催地]

●平成22年度 東京 平成23年1月28日(金)開催
会場：文部科学省3階講堂
(30都府県55市区町村から約110名が参加)



文部科学省ホームページ「コミュニティ・スクールについて」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm

文部科学省HPトップ→教育→小学校、中学校、高等学校→コミュニティ・スクールについて

文部科学省では、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について、パンフレット、事例集などの資料を作成し、ホームページに掲載しています。

各資料は、下記URLからダウンロードできます。コミュニティ・スクール導入の検討に当たって、コミュニティ・スクールの運営充実・発展のヒントとして、ぜひご活用ください。

パンフレット(平成22年度版)

コミュニティ・スクールの概要、指定状況、取組事例をコンパクトにまとめました。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/001.htm

文科省HPトップ→教育→小学校、中学校、高等学校→コミュニティ・スクールについて
→コミュニティ・スクールって何？



設置の手引き(平成18年1月版)

制度の目的や指定手続き、運用について20のQ&A方式で解説しています。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/1283590.htm

文科省HPトップ→教育→小学校、中学校、高等学校→コミュニティ・スクールについて
→コミュニティ・スクールをつくるにはどうしたらいいの？

事例集(平成20年3月版)

制度の概要、事例(導入のきっかけや導入手続き・実際の活動・成果と課題などの事項別事例、各学校の個別事例)、参考資料を収録しました。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm

文科省HPトップ→教育→小学校、中学校、高等学校→コミュニティ・スクールについて



指定状況(平成22年4月現在)

コミュニティ・スクールに指定された全学校名と、指定に向けて調査研究事業に参加している学校名を記載しています。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/003/1295254.htm

文科省HPトップ→教育→小学校、中学校、高等学校→コミュニティ・スクールについて→コミュニティ・スクールの指定状況について→コミュニティ・スクールの指定状況について—全国31都府県629校に広がる—



文部科学省動画チャンネル 文教政策ワンポイント講座 第5回 コミュニティ・スクールと熟議

文部科学省では、インターネット上の動画共有サイト『YouTube』に「文部科学省動画チャンネル」を開設し、硬軟さまざまなコンテンツを掲載しています。

その中で特に力をいれているのが、文部科学省の政策を、中高生にもわかりやすく紹介するシリーズ「文教政策ワンポイント講座」です。

その第5回では、「コミュニティ・スクールと熟議」をテーマに、「熟議」とは何か、そして、学校現場における「熟議」を通じた取組ともいえる「コミュニティ・スクール」について、鈴木寛副大臣がその普及にかける熱い思いを語ります。コミュニティ・スクールである東京都三鷹市立第四小学校の活動紹介もありますので、ぜひご覧ください。

文部科学省動画チャンネル

<http://www.youtube.com/mextchannel>

文教政策ワンポイント講座

第5回 コミュニティ・スクールと熟議

<http://www.youtube.com/watch?v=3x2U8w72iCg>



文科省政策創造エンジン 熟議カケアイ <http://jukugi.mext.go.jp/>

「熟議カケアイ」は、学校・家庭・地域の教育現場の方々の声を集め、「熟議」（「熟慮」と「討議」）を通じて教育政策を創り出す、文部科学省公式インターネットサイトです。

この取組をより確かなものにしていくために、インターネット上の「熟議」と併せて、それぞれの地域で、教育現場に関わられている方々が実際に集まり、より良い教育現場作りや教育政策等について議論する「リアル熟議」の取組を支援しています。

「熟議カケアイ」、「リアル熟議」いずれについても、コミュニティ・スクールの関係者の皆さんの参加をお待ちしています。

「リアル熟議」の開催予定等

「熟議カケアイ」トップページ→事務局からのお知らせ

「リアル熟議（現場対話）」開催の誘い」

インターネット上の対話への参加登録

「熟議カケアイ」トップページ→会員登録はこちら

